

研究主題**かかわりあい、共に高め合う子どもの育成(2年次)****1 研究主題の設定理由****(1) 当校の教育目標より**

学校教育目標は「ともにのびよう」である。これは、お互いを尊重し、ともに活動する中で、一人ひとりがそのもてる力を伸ばしていくことをめざすものである。そのために「どんな授業や活動を組織していけばいいのか」「どんな人間関係を構築していけばいいのか」等を考えていかなければならない。そのため、研究主題を上記のものとした。

(2) 昨年度の校内研究と子どもの実態から

昨年度は、「かかわりあい、ともに高め合う子どもの育成」の1年次であった。そこでは、以下のようなことが明らかになった。

①考えをもたせる段階

- ・既習事項を想起させ活用させることが自力解決に有効である。
- ・自分の考えを書かせることは、自分の考えの整理につながり、次の活動が活発になる。
- ・算数において具体物を用いることは、自分の考えを確認したり、構築したりすることにつながる。
- ・本時の内容や流れが分かる板書、「ねらい」「自分の考え(理由をつける)」「分かったこと」を明記するノート指導をさらに徹底する必要がある。
- ・考えに多様性を求める発問の工夫等の必要がある。

②かかわり合う段階

- ・自力解決したお互いの考えについて話し合ったり、話し合いの視点を明示してかかわらせたりしながら、自分の考えを深める姿が見られた。
- ・話し合いのための話型モデルを示したりかかわりを深めるための学習形態(一斉、グループ、ペアなど)を工夫したりできた。(形式面)
- ・それぞれの考えをかかわらせ、学習課題の解決に向かう話し合いの視点や形態などをさらにつめていく必要がある。

研究主題「かかわりあい、ともに高め合う」の具現を目指し、昨年度明らかになった課題を一つ一つ解決していく必要がある。

2 研究内容

(1) 今年度取り組む課題

は 考 え る 段 階 で	<p>① ノート指導に重点を置き、自分の考えに理由をつけて書く力の育成</p> <p>② 本時の内容や流れが分かる板書の工夫</p> <p>③ 多様な考えを生み出す発問や活動の工夫</p> <p>④ 一人ひとりに考えをもたせるための指導の工夫</p>
で 合 か は う か 段 階 わ り	<p>⑤ 友だちの考えのよさを取り入れ、考えを再構築する態度や力の育成</p> <p>⑥ 多様な考えを1つの結論にまとめるための学習展開や手立ての工夫</p>

一人ひとりの教師が、自学級の子どもの実態を考慮して取り組む項目を決め、一年間授業の改善に努める。

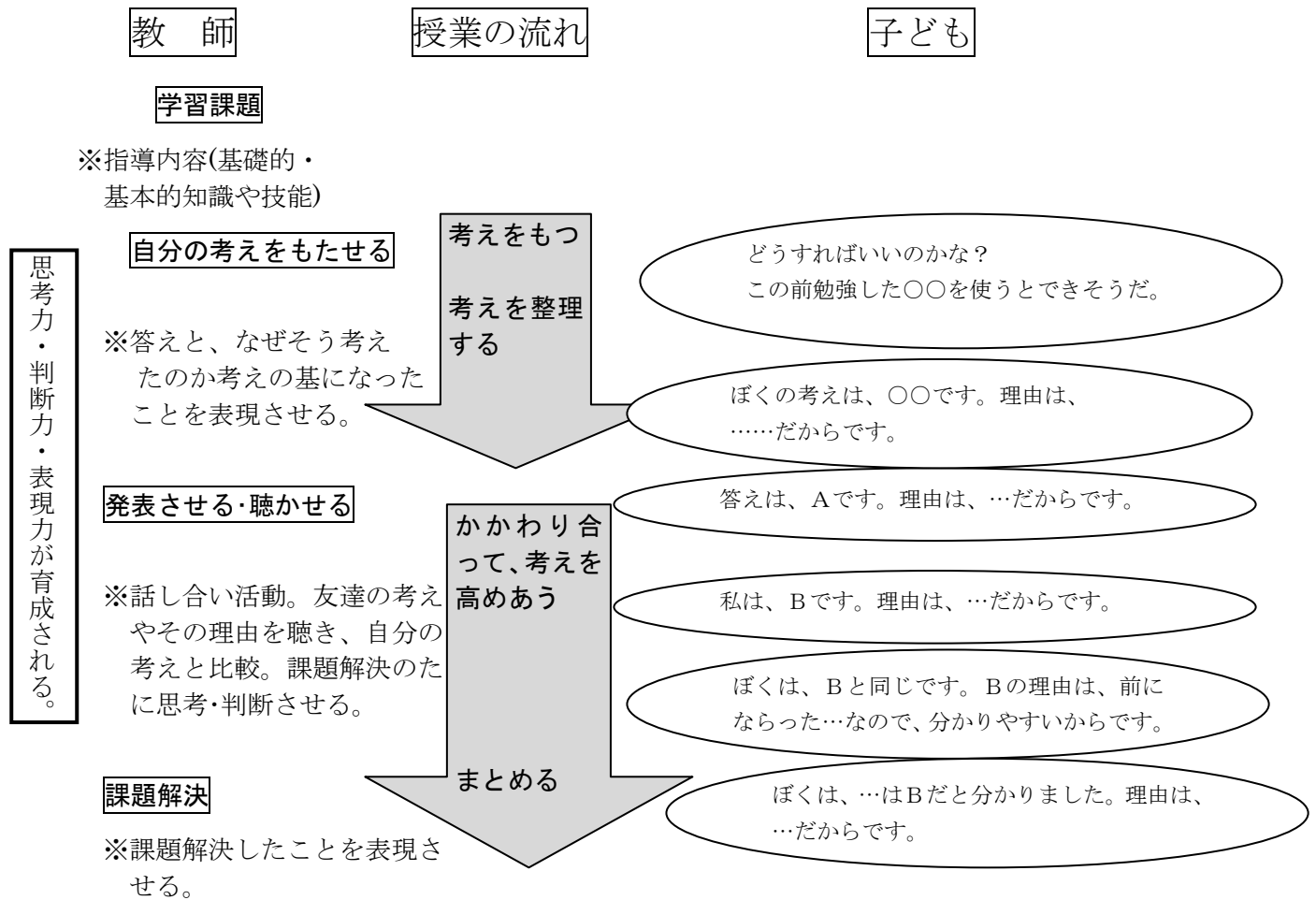
例 子どもたちに〇〇な力を付けたい、教師自身が〇〇な力を付けたいという理由で、① ③ ⑥に取り組む

(2) 「かかわりあい、ともに高め合う子ども」のめざす子ども像

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<p>◎じぶんのかんがえをはっきりとはなす子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなにきこえる大きさのこえではなす。 ・「はじめに」「つぎに」などのじゅんじょがわかることばをつかってはなす。 <p>◎はなしをさいごまできく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はなす人をよく見てきく。 ・わからないことをしつもんする。 <p>◎わだいにそって話し合う子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はなしをしゅうちゅうしてきく。 ・わだいにそってはなしあう。 	<p>◎自分の考えを整理して話す子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由とけつろんをはっきりさせて話す。 ・「だから」「だけど」などのつながりをしめす言葉を使って話す。 <p>◎話の中心に気をつけて聞く子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったときは、うなずいたりあいづちをうったりしながら聞く。 ・話の中心について質問したり感想を述べたりする。 <p>◎同じ点や違う点をつかみ話し合う子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えの同じ点やちがう点を考えて話し合う。 	<p>◎自分の考えの根拠を明確にして話す子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由となる事実や記述、例などをもとに話す。 ・「つまり」「このように」などのまとめる言葉を使って話す。 <p>◎話し手の意図をつかみ、自分の考えとくらべながら聞く子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉をメモしながら聞く。 ・自分の意見と同じか違うかをくらべながら聞き、自分の考えをまとめる。 <p>◎互いの意図をつかみ話し合う子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意図をはっきりさせて話し合う。

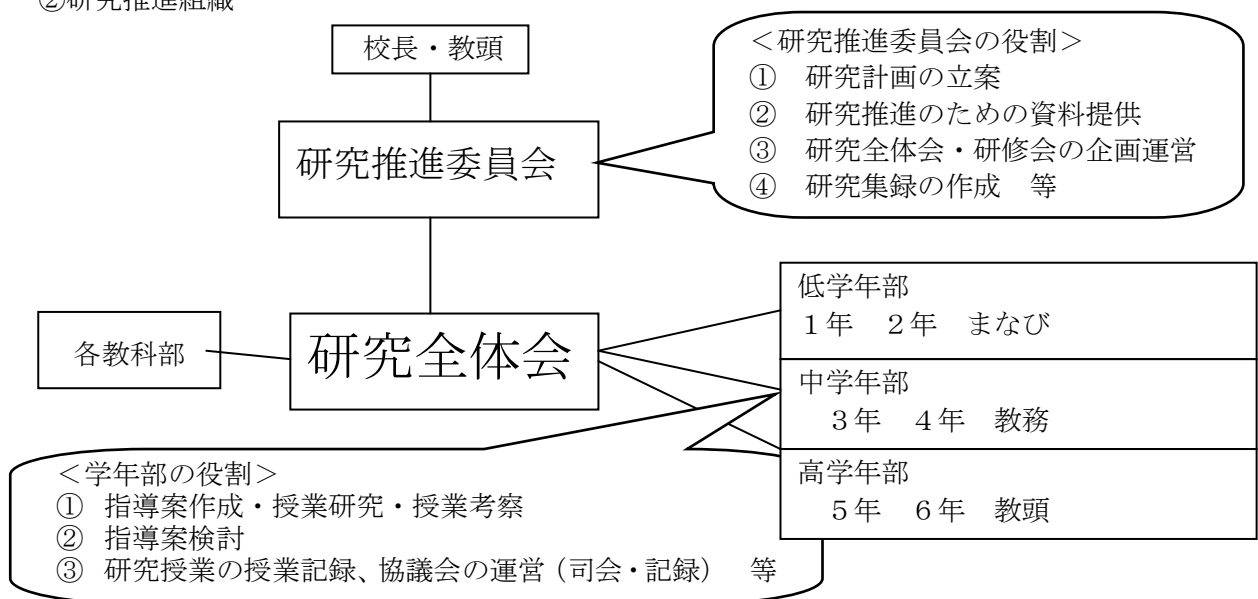
◎研究授業のみならず、日常の授業の「話す・聞く・話し合う」活動を通して上記の子ども像の具現を目指す。

(3) 授業像の流れ



(4) 研究の進め方

- ① 低・中・高学年部単位の研究組織とし、学年部計画等の立案や授業の実践を行う。
- ② 研究推進組織



(5) 研究授業について…全学級で授業公開を行う。

- ◎ 市教委訪問(2学期)、外部講師を招いての研究授業(1, 2学期に各1回を予定)
 - ・ 全員参加とする。
 - ・ 指導案検討は学年部で行い、その後、全体で再度検討会を行う。
- 校内の研究授業
 - ・ 全員の参加で行い、授業後、協議会を行う。
- 級外も指導案を作成し(可能な限り、研究主題に沿った内容で)授業公開を行う。
 - ・ 可能な職員が参加することとし、授業後、感想等を記述する。
 - ・ 指導案検討は授業学級の担任と行うことを基本とし、必要であれば授業学級の学年部を招集して行う。

(6) 研究教科について

特に指定はしない。

(7) 研究集録の作成について

1年間の実践を研究集録としてまとめ、製本する。

(8) その他の研修

- ① 23年度同和教育研究を受けて、25年度も、1回は同和教育の研究授業を行い、手立てや児童の様子などについて協議検討し、職員の人権意識を高めるための研修とする。先進実践校、県同教等の講演会等への参加、隣保館等関係機関との連携・研修、指導者の招聘なども積極的に検討していく。(同和教育、人権教育部、道徳部、研推)
- ② 新発田市の掲げている教育課題として次のようなものが挙げられる。各部が中心となって、推進していくものとする。
 - ・ 学力向上(研推) ・ 日本語(日本語部) ・ 食育(食育・給食部、学活部、総合部)
 - ・ 同和教育(同和教育、人権教育部、道徳部)
- ③ 新学習指導要領実施に伴う課題として次のようなものが挙げられる。各部が中心となって、推進していくものとする。
 - ・ 学力向上(研推) ・ 外国語活動(国際理解部)

(9) 研究年間計画の見通し

4月	研究全体会(17日)：全体計画の共通理解
5月	
6月	研究授業 年
7月	研究授業 3年(指導者招聘)
8月	(1学期授業研究のまとめ)
9月	研究授業 5年(市教委訪問 / ?)
10月	研究授業 年
11月	研究授業 6年(指導者招聘)
12月	研究授業 年
1月	研究授業 年
2月	授業研究のまとめ
3月	次年度の方向性の検討、次年度研究計画(案)の作成

3 子どもの「分かる・できる」を支える取り組み(日常的に実践するもの)

(1) 板書の工夫

「ねらい」「課題(問題)」「自分の考え」「分かったこと」をしっかりと板書し、ノート指導につなげていく

(2) ノート指導の工夫

「自分の考えを書かせる(理由は必ず書かせる)場」と「分かったことを書かせる場」を設定し重視していく。

(3) コミュニケーション能力(「話す・聞く・話し合う」力)の育成

(4) 家庭学習の定着(学年×10分の徹底)

(5) 学習規律(学習用具の準備・時間を守る・話しを聞く)の徹底

(6) Webテストの活用、NRT学力検査の分析と活用

4 指導案の形式

(1) 外部からの参観者のいない授業研究の指導案(A4裏表1枚程度)

第○学年○組 ○○科学習指導案																	
		平成 25 年○月○日 () ○校時															
		指導者 ○○ ○○															
1	単元名																
2	本時のねらい																
3	指導の構想	<p>例 今までは、1と4と6について取り組んできている。現在は、……な姿である。本時は、4と6について授業で取り組むのでご意見をいただきたい。</p>															
	(1) ヒントカードを与える(課題の 4)																
	(2) 友達の意見を取り入れ、考えを再構築する。(課題の 6)																
4	展開																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">学習活動</th> <th style="width: 50%;">教師の働きかけと子どもの反応や活動</th> <th style="width: 30%;">○支援 ・留意点 □評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 課題をつかむ</td> <td> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">教師の働きかけ</div> ・子どもの反応や活動 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 考えをもつ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 かかわる</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 まとめる</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学習活動	教師の働きかけと子どもの反応や活動	○支援 ・留意点 □評価	1 課題をつかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">教師の働きかけ</div> ・子どもの反応や活動		2 考えをもつ			3 かかわる			4 まとめる			
学習活動	教師の働きかけと子どもの反応や活動	○支援 ・留意点 □評価															
1 課題をつかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">教師の働きかけ</div> ・子どもの反応や活動																
2 考えをもつ																	
3 かかわる																	
4 まとめる																	
	(3) 評価																
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」の達成はどうであったか。 ・4についてはどうであったか。 ・6についてはどうであったか。 																

(2) 市教委訪問等における指導案 (A 4 で 3 枚程度)

第〇学年〇組 〇〇科学習指導案

平成 25 年〇月〇日 () 〇校時

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名

2 単元の目標

◎

3 単元の評価規準

○

4 子どもの実態と単元の構想 (研究主題・内容とのかかわりを記述)

(1) 子どもの実態(今年度取り組んでいることをもとに、子どもの実態について述べる。)

(2) 単元の構想 1・ 5・ 6 について、～したい。

5 単元の指導計画

次	時	主な学習活動
1	1	○ ① ②
	2	
2	1	

6 本時の指導

(1) 本時のねらい (/ 時間)

(2) 指導の構想

(3) 展開

学習活動	教師の働きかけと子どもの反応や活動	○支援 ・留意点 □評価
1 課題をつかむ	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ	
2 考えをもつ	・子どもの反応や活動	
3 かかわる		
4 まとめる		

(4) 評価